

和泉葛城山の昆虫（2012 年度調査）

岩崎 拓（貝塚市立自然遊学館）

はじめに

天然のブナ林を有する和泉葛城山の山頂付近の昆虫相の変化を記録にとどめるため、2008 年度に予備的な調査を開始し、2009 年以降は 4 月から 12 月まで毎月 1 回の割合で定期的な調査を行ってきた（岩崎、2010、2011、2012、2013b）。これまでの調査で、大阪府レッドデータブック（大阪府、2000）で準絶滅危惧に指定されているムカシトンボ、ヒトコブササキリモドキ、セグロイナゴ、エゾゼミ、テングオオヨコバイ、オニクワガタ、セダカテントウダマシ、ヒメヤママユが確認され、その他、山地性の種として、エゾツユムシ、テングアワフキ、オオトビサシガメ、トゲカメムシ、ツマジロカメムシ、ツノアオカメムシ、ミヤマカメムシ、トホシカメムシ、シダクロスズメバチなどが確認されている。また、和歌山県側の草原に由来する種や、岸和田市側の雑木林に由来する種も和泉葛城山山頂付近の昆虫相の構成要素となっている。2012 年度も昆虫相全般を対象にした調査を継続して行った。

調査方法

2012 年 4 月から 12 月にかけて、毎月 1 回、合計 9 回、雨でない日を選んで調査を行った。和泉葛城山山頂付近（標高 820～858m：メッシュコード 51354314-15：図 1）を約 3 時間かけて歩き回り、目視か鳴き声によって種の確認を行った。目視で同定可能な種は記録するか写真撮影に留め、自然遊学館に標本のない種および近年に記録のない種を採集し、当館の所蔵標本とした。本調査の結果は、速報としてはすでに当館の季刊誌「自然遊学館だより」に報告されている（岩崎、2013a）。



図 1. 山頂付近のブナ林 2012. 5. 10

結果および考察

4 月から 12 月にかけての計 9 回の調査で確認された昆虫は 15 目 106 科 246 種、目ごとの種数は、トンボ目 4 種、カワゲラ目 2 種、バッタ目 21 種、カマキリ目 1 種、ゴキブリ目 1 種、ナナフシ目 2 種、ハサミムシ目 1 種、チャタテムシ目 2 種、カメムシ目 47 種、アミメカゲロウ目 2 種、コウチュウ目 59 種、シリアゲムシ目 1 種、ハエ目 34 種、チョウ目 49 種（うちチョウ類 26 種）、ハチ目 20 種であった（表 1）。以下、主な目の結果について、簡単な解説を行った。

表1-1. 和泉葛城山山頂付近において2012年4月から12月にかけて確認された昆虫のリスト1

「○」印は成虫での確認、「△」印は幼虫での確認、「鳴」印は鳴き声による確認を、それぞれ示している。

目	科	種	学名	調査月 調査日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
					13日	10日	14日	10日	7日	5日	6日	8日	13日	
トンボ目	アオイトトンボ科	オツネイトンボ	<i>Symplectma paedisca</i>								○			
		オニヤンマ	<i>Anotogaster sieboldii</i>						○					
	トンボ科	オオシオカラトンボ	<i>Orthetrum triangulare melania</i>							○				
カワゲラ目	オナシカワゲラ科	ウスバキトンボ	<i>Pantala flavescens</i>						○	○				
		ジュッポンオナシカワゲラ	<i>Amphinemura decimceta</i>		○									
		サトモンオナシカワゲラ	<i>Amphinemura zonata</i>		○									
バッタ目	コロギス科	ハネナンコロギス	<i>Nippancistroger testaceus</i>					△			△			
		チビクチキウマ	<i>Anoplophilus minor</i>			○								
		クチキウマ属	<i>Anoplophilus</i> sp.			△								
	キリギリス科	ハヤシウマ	<i>Diestrammena itodo</i>									△		
		ヤブキリ	<i>Tettigonia orientalis</i>					△		鳴				
		ヒメギス	<i>Eobiana engelhardti subtropica</i>					△						
	ツユムシ科	ホソクビツユムシ	<i>Shirakisotima japonica</i>								△			
		アシグロツユムシ	<i>Phaneroptera nigroantennata</i>							△		○		
	ササキリモドキ科	ヒトコブササキリモドキ	<i>Tettigoniopsis kongozanensis</i>							○				
	コオロギ科	モリオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus sylvestris</i>									○	鳴	
	マツムシ科	カンタン	<i>Oecanthus longicauda</i>									○		
	ヒバリモドキ科	マダラスズ	<i>Dianemobius nigrofasciatus</i>										鳴	
		シバズ	<i>Polionemobius mikado</i>										鳴	鳴
		クサヒバリ	<i>Svistella bifasciata</i>										鳴	
	バッタ科	キアシヒバリモドキ	<i>Trigonidium japonicum</i>				○							
ヤマトフキバッタ		<i>Parapodisma yamato</i>									○	○		
フキバッタ属		<i>Parapodisma</i> sp.			△	△	△							
ナキイナゴ		<i>Mongolotettix japonicus</i>				○	○	○						
ツマグロバッタ		<i>Stethophyma magister</i>								○	○			
クルマバッタモドキ		<i>Oedaleus infernalis</i>								○				
ヒロバナヒナバッタ		<i>Stenobothrus fumatus</i>									○			
カマキリ目		カマキリ科	オオカマキリ	<i>Tenodera aridifolia</i>				△	△		○	卵		
ゴキブリ目		チャバネゴキブリ科	キスジゴキブリ	<i>Symphloe striata striata</i>					○					
ナナフシ目	ナナフシ科	エダナナフシ	<i>Phraortes illepidus</i>			△	△	△	○	○				
ハサミムシ目	クギヌキハサミムシ科	ニホントビナナフシ	<i>Micadina phluctainoides</i>							△	○			
		エゾハサミムシ	<i>Eparchus yezoensis</i>								○			
		スジチャタテ	<i>Psococerastis tokyoensis</i>									○		
チャタテムシ目	チャタテ科	リンゴチャタテ	<i>Psocidus mali</i>								○			
カメムシ目	セミ科	エゾゼミ	<i>Tibicen japonicus</i>									鳴	鳴	
		ミンミンゼミ	<i>Oncotympana maculaticollis</i>										鳴	
		ニイニゼミ	<i>Platypleura kaempferi</i>										鳴	鳴
		ツクツクボウシ	<i>Meimuna opalifera</i>											鳴
		ヒグラシ	<i>Tanna japonensis</i>											○
	アワフキムシ科	ミヤマアワフキ	<i>Peuceptylus nigroscutellatus</i>				○	○	○	○				
		コガシラアワフキ	<i>Euscartopsis assimilis</i>						○	○				
		トビイロツノゼミ	<i>Machaerotypus sibiricus</i>				○	○						
		オビヒメヨコバイ	<i>Naratettix zonatus</i>						○					
		オヌキヨコバイ	<i>Onukia onukii</i>							○				
	ヒシウンカ科	イグチホシヨコバイ	<i>Xestocephalus iguchii</i>				○							
		ツマグロオオヨコバイ	<i>Bothrogonia ferruginea</i>									○	○	
		フチミヤクヨコバイ	<i>Drabescus nigrifemoratus</i>											○
		フチヒシウンカ	<i>Triphacus</i> sp.				○							
		ハネナガウンカ科	キスジハネビロウンカ	<i>Rhotana satsumana</i>										○
アブラムシ科	セイリウダチゾウヒゲナガアブラムシ	<i>Uroleucon nigrotuberculatum</i>					○	○						
	シマサシガメ	<i>Sphedanolestes impressicollis</i>									○	○		
	オオトビサシガメ	<i>Isyndus obscurus</i>										△	○	
	ヤニサシガメ	<i>Velinus nodipes</i>				△							△	
	ケフカカミカメ	<i>Tingitum perlatum</i>					○							
グンバイムシ科	マダラカミカメ	<i>Cyphodemeida saundersi</i>				○								
	オオチャイロカミカメ	<i>Creontiades tricolor</i>											○	
	アワダチソウグンバイ	<i>Corythucha marmorata</i>					○	○						
	オオヒラタカメムシ	<i>Mezira scabrosa</i>											○	
	セアカツノカメムシ	<i>Acanthosoma denticaudum</i>								○	○		○	
ツノカメムシ科	エサキモンキツノカメムシ	<i>Sastragala esakii</i>												
	アオモンツノカメムシ	<i>Dichobothrium nubilum</i>											○	
	ミツボシツノカメムシ	<i>Adomerus triguttulus</i>											○	
	ムラサキシラホシカメムシ	<i>Eysarcoris annamita</i>											○	
	チャバネアオカメムシ	<i>Plautia crossota stali</i>											○	
ツマジロカメムシ科	ツマジロカメムシ	<i>Menida violacea</i>											○	
	ミヤマカメムシ	<i>Hermolaus amurensis</i>											○	
	トゲカメムシ	<i>Carbula humerigera</i>											○	
	クチブトカメムシ	<i>Picromerus lewisi</i>											△	
	シモフリクチブトカメムシ	<i>Eocanthecona japonicola</i>											○	
エビイロカメムシ科	トホシカメムシ	<i>Lelia decempunctata</i>											△	
	エビイロカメムシ	<i>Gonopsis affinis</i>											△	
	マルカメムシ科	マルカメムシ	<i>Megacopta punctatissima</i>										○	
	クヌギカメムシ科	ヘラクヌギカメムシ	<i>Urostylis westwoodii</i>										○	
	ナガカメムシ科	ムラサキナガカメムシ	<i>Pylorgus colon</i>										○	
ホソヘリカメムシ科	Nysius属	<i>Nysius</i> sp.											○	
	ヒメクモヘリカメムシ	<i>Paraplesius unicolor</i>											○	
	オオツマキヘリカメムシ	<i>Hygia lativentris</i>											○	
	ハリカメムシ	<i>Oletus rusticus</i>											○	
	ホシハラビロヘリカメムシ	<i>Homoeocerus unipunctatus</i>											○	
アミメカゲロウ目	ヒメカゲロウ科	ハラビロヘリカメムシ	<i>Homoeocerus dilatatus</i>										○	
		ホソハラヒメカゲロウ	<i>Micromus multipunctatus</i>										○	
		カスリヒロバカゲロウ	<i>Spilosmylus nipponensis</i>										○	

表1-2. 和泉葛城山山頂付近において2012年4月から12月にかけて確認された昆虫のリスト2

「○」印は成虫での確認を示している。

目	科	種	学名	調査月 調査日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
					13日	10日	14日	10日	7日	5日	6日	8日	13日		
コウチュウ目	オサムシ科	ヤマトオサムシ	<i>Carabus yamato</i>				○	○							
		イワキオサムシ	<i>Carabus iwakianus iwakianus</i>					○							
		オオオサムシ	<i>Carabus dehaanii</i>											死体	
	シデムシ科 ハネカクシ科		フタホシアトキリゴミムシ	<i>Lebia bifenestrata</i>			○	○							
			コクツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus melantho</i>										○	
				ヨツボシモンシデムシ	<i>Nicrophorus quadripunctatus</i>								○		
				サビハネカクシ	<i>Ontholestes gracilis</i>						○	○			
				コアリガタハネカクシ	<i>Megalopaederus lewisi</i>	○	○	○	○	○	○	○	○		
				コクシヒゲハネカクシ	<i>Velleius setosus</i>					○					
				オオキハハネカクシ	<i>Oxyporus japonicus</i>									○	
				オニクワガタ	<i>Prismognathus angularis</i>										死体
				ミヤマクワガタ	<i>Lucanus maculiformoratus</i>										死体
			クワガタ	<i>Macrodercus recta</i>					○						
コガネムシ科			スジクワガタ	<i>Macrodercus striatipennis</i>				○				○			
		センチコガネ	<i>Geotrupes laevistriatus</i>				○								
		カナブン	<i>Rhomborrhina japonica</i>						○						
		コアオハナムグリ	<i>Oxycetonia jucunda</i>								○				
タマムシ科		タマムシ	<i>Chrysochroa fulgidissima</i>						○						
		ルリツヤハダコメツキ	<i>Athous subcyaneus</i>						○						
コメツキムシ科		オオナガコメツキ	<i>Elater sieboldi sieboldi</i>						○						
		キバナホノコメツキ	<i>Dolerosomus gracilis</i>			○									
		ヒメキマダラコメツキ	<i>Gamepenthes similis</i>							○					
ベニボタル科		アカヒゲヒラタコメツキ	<i>Neopristiphorus serrifer serrifer</i>					○							
		ホソベニボタル	<i>Mesolytus atrorufus</i>					○							
ホタル科		オオオノボタル	<i>Lucidina accensa</i>					○	○						
		ジョウカイボン	<i>Athemus suturellus</i>				○								
ジョウカイボン科		ミヤマクビボンジョウカイ	<i>Podabrus lictorius</i>			○									
		ケシキスイ科	キイロセマルケシキスイ	<i>Oychramus dorsalis</i>								○	○		
オオキノコムシ科		ヨツボシケシキスイ	<i>Librodor japonicus</i>				○	○							
		オオキマダラケシキスイ	<i>Soronia fracta</i>					○							
		ホソチビオオキノコ	<i>Triplax japonica</i>					○							
テントウムシ科		ナミテントウ	<i>Harmonia axyridis</i>				○								
		ナナホシテントウ	<i>Coccinella septempunctata</i>					○							
		シロホシテントウ	<i>Vibidia duodecimguttata</i>					○							
ゴミムシダマシ科		キマワリ	<i>Plesiophthalmus nigrocyaneus</i>					○	○						
		ズビロキマワリモドキ	<i>Gnesis helopioides helopioides</i>								○				
		クロホシテントウゴミムシダマシ	<i>Derispia maculipennis</i>				○	○		○					
カミキリモドキ科		モモトカミキリモドキ	<i>Oedemeronia lucidicollis</i>				○								
		アカホソアリモドキ	<i>Anthicus fugiens</i>				○								
カミキリムシ科		ヒメナガサビカミキリ	<i>Pterolophia leiopodina</i>					○							
		エゾサビカミキリ	<i>Pterolophia tsurugiana</i>									○			
		フタオビノミハナカミキリ	<i>Pidonia puzioi</i>				○								
ハムシ科		シラホシカミキリ	<i>Glenea relicta</i>						○						
		キイロクビナガハムシ	<i>Lilloceris rugata</i>				○								
		エグリバケブカハムシ	<i>Pyrrhalta esakii</i>								○				
		フチヒゲケブカハムシ	<i>Pyrrhalta annulicornis</i>									○			
		イチゴハムシ	<i>Galerucella grisescens</i>					○							
		クロボシツツハムシ	<i>Cryptocephalus signaticeps</i>					○							
		バラルリツツハムシ	<i>Cryptocephalus approximatus</i>					○							
		ヨモギハムシ	<i>Chrysolina aurichalcea</i>									○			
		ズグロキハムシ	<i>Gastrolinoides japonicus</i>					○							
		ツブノミハムシ	<i>Aphthona perminuta</i>			○									
		ヒゲナガリマルノミハムシ	<i>Hemipyxis plagioderoides</i>					○							
	オトシブミ科		ジンガサハムシ	<i>Aspidomorpha indica</i>					○						
		カシルリオトシブミ	<i>Euops politus</i>							○					
		ルリコブオトシブミ	<i>Euops pustulosus</i>							○					
ゾウムシ科		リンゴゴフキゾウムシ	<i>Phyllobius armatus</i>					○	○						
		ユアサハナゾウムシ	<i>Anthonomus yuasai</i>					○							
		ウスヒョウタンゾウムシ	<i>Dermatoxenus clathratus</i>						○	○					
シリアゲムシ目	シリアゲムシ科	ヤマトシリアゲ	<i>Panorpa japonica</i>					○							
ハエ目	ガガンボ科	キイロホソガガンボ	<i>Nephrotoma virgata</i>					○							
		-	gen. et sp.										○		
	キノコバエ科	ヨモギエボシタマバエ	<i>Rhopalomyia yomogicola</i>							ゴール					
		-	gen. et sp.			○									
	アブ科	ウシアブ	<i>Tabanus trigonus</i>							○	○				
		キスジアブ	<i>Tabanus fulvimeidioides</i>							○					
	ツリアブ科	ビロウドツリアブ	<i>Bombylus major</i>					○							
		ムシヒキアブ科	マグリケムシヒキ	<i>Neoitamus angusticornis</i>					○		○				
	オドリバエ科	シオヤムシヒキ	<i>Promachus yesonicus</i>							○					
		ネウスオドリバエ	<i>Empis flavobasalis</i>					○							
		アカメセダカオドリバエ	<i>Syneches grandis</i>						○	○	○				
	アシナガバエ科	ハナアブ科	-	gen. et sp.			○								
マダラアシナガバエ			<i>Psilopus nebulosus</i>						○	○					
		オオハナアブ	<i>Phytomia zonata</i>						○		○				
		ナミハナアブ	<i>Eristalis tenax</i>						○	○					
		キイロナミホシヒラタアブ	<i>Syrphus vitripennis</i>			○									
		シマハナアブ	<i>Eristalis cerealis</i>					○		○	○				
		ホソヒラタアブ	<i>Episyrphus balteatus</i>									○			
		ホソヒヒラタアブ	<i>Sphaerophoria macrogaster</i>						○						
		ハナダカハナアブ	<i>Rhingia laevigata</i>				○								
		アシブトハナアブ	<i>Helophilus virgatus</i>					○	○		○				
		オオマヒラタアブ	<i>Allograpta iavana</i>									○			
ヤセバエ科			ホシアシナガヤセバエ	<i>Stylocleidia appendiculatus</i>						○					

表1-3. 和泉葛城山山頂付近において2012年4月から12月にかけて確認された昆虫のリスト3

「○」印は成虫での確認、「△」印は幼虫での確認を、それぞれ示している。

目	科	種	学名	調査月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
				調査日	13日	10日	14日	10日	7日	5日	6日	8日	13日	
ハエ目	メバエ科	マダラメバエ	<i>Myopa buccata</i>			○								
	ヒロクチバエ科	ハマダラヒロクチバエ	<i>Prosthiochaeta flavihira</i>			○								
	ミバエ科	ミスジミバエ	<i>Zeugodacus scutellatus</i>				○							
	シマバエ科	ヒラヤマシマバエ	<i>Homoneura hirayamae</i>			○		○						
	ベッコウバエ科	ベッコウバエ	<i>Dryomyza formosa</i>				○	○	○					
	フンバエ科	ヒメフンバエ	<i>Scathophaga stercoraria</i>			○			○	○				
		キアシフンバエ	<i>Scathophaga mellipes</i>					○						
	クロバエ科	オオクロバエ	<i>Calliphora lata</i>			○							○	
		ツマグロキンバエ	<i>Stomorhina obsoleta</i>					○						
	ヤドリバエ科	ヨコジマオオハリバエ	<i>Servilla amurensis</i>								○			
		セスジハリバエ	<i>Tachina nupta</i>									○		
	チョウ目	アゲハチョウ科	モンキアゲハ	<i>Papilio helenus nicconicolens</i>						○				
			キアゲハ	<i>Papilio machaon</i>							○			
		シロチョウ科	スジグロシロチョウ	<i>Pieris melete</i>				○	○	○	○	○		
		キチョウ(キタキチョウ)	<i>Eurema mandarina</i>					○	○	○	○			
タテハチョウ科		ミドリヒョウモン	<i>Argynnis paphia</i>				○	○	○		○			
		ツマグロヒョウモン	<i>Argyreus hyperbius hyperbius</i>					○	○					
		クロヒカゲ	<i>Lethe diana diana</i>				○	○	○	○				
		ヒカゲチョウ	<i>Lethe sicelis</i>					○	○					
		ジャノメチョウ	<i>Minois dryas</i>								○			
		ヒメジャノメ	<i>Mycalesis gotama fulginia</i>					○						
		アカタテハ	<i>Vanessa indica</i>			○	○							
		ヒメアカタテハ	<i>Cynthia cardui</i>					○						
		ルリタテハ	<i>Kaniska canace nojaponicum</i>					○		○		○		
		スミナガシ	<i>Dichorragia nesimachus nesiotis</i>					○		○				
		ヒオドシチョウ	<i>Nymphalis xanthomelas japonica</i>		○									
		サカハチチョウ	<i>Araschnia burejana</i>					○	○	○				
		アサギマダラ	<i>Parantica sita nipponica</i>						○		○			
		テングチョウ	<i>Libythea celtis celtoides</i>					○	○					
シジミチョウ科		ルリシジミ	<i>Celastrina argiolus ladonides</i>		○									
		ヤマトシジミ	<i>Zizeeria maha argia</i>							○			○	
		ウラナシジミ	<i>Lampides boeticus</i>									○		
		ベニシジミ	<i>Lycaena phlaeas daimio</i>						○	○				
		トラフシジミ	<i>Rapala arata</i>						○					
		ムラサキシジミ	<i>Narathura japonica japonica</i>						○					
セセリチョウ科		ホソバセセリ	<i>Isoteinon lamprospilus lamprospilus</i>							○				
		イチモンジセセリ	<i>Parnara guttata guttata</i>								○			
ヒゲナガガ科		ウスベニヒゲナガ	<i>Nemophora staudingerella</i>					○						
		ホソオビヒゲナガ	<i>Nemophora aurifera</i>					○						
キバガ科		Polyhymno属の一種	<i>Polyhymno</i> sp.								○			
ハマキガ科		ブライヤハマキ	<i>Acleris affinitana</i>										○	
		ヒメハマキ亜科の一種	gen. et sp.						○					
マダラガ科		ホタルガ	<i>Pidorus atratus</i>							○				
スカシバガ科		ヒメコスカシバ	<i>Synanthedon tenuis</i>								○			
ツトガ科		シロテンキノメイガ	<i>Nacoleia commixta</i>						○					
ジャクガ科		ツマキエダシャク	<i>Platycerota incertaria</i>				○							
		キタウンモンエダシャク	<i>Jankowskia pseudathleta</i>						○					
		フトフタオビエダシャク	<i>Ectropis crepuscularia</i>						○					
		Inurois属の一種	<i>Inurois</i> sp.										○	
アゲハモドキ科		キンモンガ	<i>Psychostrophila melanargia</i>					○		○	○			
ヤマユガ科		エソヨツメ	<i>Aglia tau microtau</i>						死体					
シャチホコガ科		シャチホコガ	<i>Stauropus fagi persimilis</i>								△			
		ツマアカシャチホコ	<i>Clostera anachoreta</i>						○					
ドクガ科		シロオビドクガ	<i>Numenes albofascia albofascia</i>								○			
		ゴマフリドクガ	<i>Euproctis pulverea</i>										△	
		ヒメモンシロドクガ	<i>Orgyia thyellina</i>									△		
ヒトリガ科		ヨツボシホソバ	<i>Lithosia quadra</i>							△				
		シロヒトリ	<i>Chionarctia nivea</i>							○				
ヤガ科	シマカラスヨトウ	<i>Amphipyra pyramidea yama</i>						○						
	フクラスズメ	<i>Arcte coerula</i>							○					
ハチ目	ヒメバチ科	トワダヒメバチ	<i>Protichneumon pisorius</i>					○						
	ツチバチ科	キンケハラナガツチバチ	<i>Campsomeris prismatica</i>							○		○		
	ベッコウバチ科	オオモンクロベッコウ	<i>Anoplus samariensis</i>									○		
	スズメバチ科	オオスズメバチ	<i>Vespa mandarinia japonica</i>						○	○				
	アリ科	ムネアカオオアリ	<i>Camponotus obscuripes</i>			○	○	○						
		クロオオアリ	<i>Camponotus japonicus</i>			○		○	○			○		
		ウメマツオオアリ	<i>Camponotus tokiensis</i>			○		○				○		
		クロヤマアリ	<i>Formica japonica</i>			○	○	○	○	○	○	○	○	
		クサアリモドキ	<i>Lasius spathepus</i>					○						
		トビイロケアリ	<i>Lasius japonicus</i>			○	○	○	○	○				
		アメイロアリ	<i>Paratrechina flavipes</i>			○	○	○	○	○	○			
		ムネボソアリ	<i>Temnothorax congruus</i>					○						
		オオシワアリ	<i>Tetramorium bicarinatum</i>			○	○	○	○	○	○			
		ヤマトアシナガアリ	<i>Aphaenogaster japonica</i>					○						
	コハナバチ科	エサキハラアカハナバチ	<i>Sphecodes similis</i>				○	○						
	ミツバチ科	Nomada属の一種	<i>Nomada</i> sp.				○							
		ニホンミツバチ	<i>Apis cerana</i>				○							
		クロマルハナバチ	<i>Bombus ignitus</i>								○			
		トラマルハナバチ	<i>Bombus diversus diversus</i>						○			○		
		コマルハナバチ	<i>Bombus ardens ardens</i>			○								

バッタ目

大阪府レッドデータブックの指定種としては、準絶滅危惧のヒトコブササキリモドキ（図2）が8月7日に確認された。ブナ林内に生息している種で、2009年から4年連続で確認されていて、安定した個体群が保たれているものと考えられる。その他、山地性のホソクビツユムシの幼虫（図3）が同じく8月7日に確認された。自然遊学館の記録としては、2003年と2006年以来の同所での確認となった。

ハサミムシ目

9月5日に確認されたエゾハサミムシは、自然遊学館の記録としては、2003年の同所での2個体以来のもので、3個体目の標本となった。

カメムシ目

大阪府レッドデータブックの指定種では、準絶滅危惧のエゾゼミの鳴き声が8月7日と9月5日に確認された。エゾゼミは2008年から5年連続で確認されている。また山地性の種として、オオトビサシガメ、トゲカメムシ、ツマジロカメムシ、ミヤマカメムシ、トホシカメムシ（図4）が確認された。これまで自然遊学館に標本がなかったものとしては、キスジハネビロウンカとオオヒラタカメムシが確認された。



図2. ヒトコブササキリモドキ
2012. 8. 7



図3. ホソクビツユムシ幼虫
2012. 8. 7



図4. トホシカメムシ
2012. 9. 5

コウチュウ目

大阪府レッドデータブックで準絶滅危惧に指定されているオニクワガタが12月13日に死体として確認された。積雪の中、ブナ倒木の樹皮の隙間に挟まっていたものである。これまで自然遊学館に標本がなかった種としては、コクロツヤヒラタゴミムシ、ルリツヤハダコメツキ、オオキマダラケシキスイ、ホソチビオオキノコ、ヒメナガサビカミキリ、エゾサビカミキリ（図5）、フタオビノミハナカミキリ、ジンガサハムシ、ルリコブオトシブミ、ユアサハナゾウムシが確認された。

チョウ目

49種のうち、チョウ類が26種で、ガ類が23種であった。大阪府レッドデータブックの指定種では、準絶滅危惧のスミナガシが6月14日と8月7日に、同じく準絶滅危惧のエゾヨツメが6月14日に死体として確認された。エゾヨツメはこれまで蕎原の本谷と東手川で確認されていたが、和泉葛城山の山頂では初めての記録である。8月7日に確認されたホソバセセリは、当館に1993年の1個体しか標本がないものながら、2011年の調査では写真撮影のみにとどめてしまったので、今回は採集し所蔵標本にした。これまで自然遊学館に標本がなかった種としては、ヒメコスカシバ（図6）、キタウンモンエダシャク、ツマアカシャチホコ（図7）が確認された。



図5. エゾサビカミキリ
2012. 10. 18



図6. ヒメコスカシバ
2012. 9. 5



図7. ツマアカシャチホコ
2012. 7. 10

2008年度から和泉葛城山山頂付近において昆虫調査を行ってきた。2008年度は4回しか調査をしていないので種数の比較はできないが、2009年度以降は4月から12月まで9回の調査を行い、2009年度は14目100科263種、2010年度は13目93科235種、2011年度は12目100科248種が確認されてきた。今回、2012年度は15目105科244種となり、これまでと大きな違いはみられなかった。これらの数値は、同定能力が限られた単一の調査者が、主に見取り法を用いて、鳴き声で確認できる種を加えるという方法で確認されたもので、スウィーピングなどの方法を加えたり、他の調査者が行った場合には、違った値になるものと思われる。

各年の調査において確認された大阪府レッドデータブックの指定種、および山地性などの注目種を表2にまとめた。大阪府レッドデータブックの指定種では、スミナガシとエゾヨツメが新たに加わった。これまでに記録されたものも含めて、ランクはすべて準絶滅危惧である。今回、注目種として山地性のエゾハサミムシと草原性のホソバセセリを加えた。注目種のリストの中では、カヤコオロギとホソバセセリが和歌山県側の草原由来の種であると考えられる。

注目種という表記を用いたが、これは第一に、自分自身が興味を持って注目したいと考える種という意味である。しかしながら、それはなるべく和泉葛城山のブナ林を代表とする環境の状態を示す指標種という意味も付加されれば良いとも願っている。ある地域の環境の状態を示す指標種には、それが確認されれば良好な環境が維持されていることを示すものと、それさえ確認できなかったのだから環境のかなりの悪化が心配されるものが考えられる。その2つの性質は完全に相反するものではなく、例えば、「貝塚市内での分布は和泉葛城山山頂付近に限られるが、山頂付近

ではそれほど少なくはない」という種では、2つの性質が併せ持っていることになる。そういう観点から、注目種の選定を進めていきたいと考えている。

表2. 和泉葛城山山頂付近において2008年から2012年にかけて行われた調査で確認された大阪府レッドリスト種および注目種

項目	目	科	種	学名	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	
大阪府レッドリスト種 (準絶滅危惧)	トンボ目	ムカシトンボ科	ムカシトンボ	<i>Epiophlebia superstes</i>			○			
		ササキリモドキ科	ヒトコブササキリモドキ	<i>Tettigoniopsis kongozanensis</i>		○	○	○	○	
	バッタ目	バッタ科	セグロイナゴ	<i>Shirakiacris shirakii</i>				○		
			エゾゼミ	<i>Tibicen japonicus</i>	○	○	○	○	○	
	カメムシ目	ヨコバイ科	テングオオヨコバイ	<i>Tengirhinus tengu</i>	○		○			
		クワガタムシ科	オニクワガタ	<i>Prismognathus angularis angularis</i>		○		○	○	
	コウチュウ目	テントウダマシ科	セダカテントウダマシ	<i>Bolbomorphus gibbosus</i>		○		○		
	チョウ目	タテハチョウ科	スミナガシ	<i>Dichorragia nesimachus nesiotis</i>					○	
	チョウ目	ヤママユガ科	ヒメヤママユ	<i>Caligula jonasii jonasii</i>				○		
				エゾヨツメ	<i>Agria tau microtau</i>				○	
	注目種	トンボ目	アオイトトンボ科	オツネイトンボ	<i>Sympetma paedisca</i>				○	○
			トンボ科	ミヤマアカネ	<i>Sympetrum pedemontanum elatum</i>			○		
		バッタ目	キリギリス科	ヒメクササキ	<i>Ruspolia dubia</i>	○	○	○	○	
				エゾツユムシ	<i>Kuwavamaea sapporensis</i>				○	
				ホソクビツユムシ	<i>Shirakisotima japonica</i>					○
ナナフシ目		マツムシ科	カヤコオロギ	<i>Euscyrthus japonicus</i>	○					
		ナナフシ科	ニホントビナナフシ	<i>Micadina phluctainoides</i>		○		○	○	
ハサミムシ目		クギヌキハサミムシ科	エゾハサミムシ	<i>Eparchus yezoensis</i>					○	
カメムシ目		セミ科	ハルゼミ	<i>Terpnosia vacua</i>	○	○	○	○	○	
		アワフキムシ科	テングアワフキ	<i>Phylagra albinotata</i>	○					
		サシガメ科	オオトビサシガメ	<i>Isyndus obscurus</i>	○	○		○	○	
		カメムシ科	ツノアオカメムシ	<i>Pentatoma japonica</i>	○	○	○			
			エゾアオカメムシ	<i>Palomena angulosa</i>			○	○		
			トゲカメムシ	<i>Carbula humerigera</i>	○	○		○	○	
			ツマジロカメムシ	<i>Menida violacea</i>	○	○	○	○	○	
			ミヤマカメムシ	<i>Hermolabus amurensis</i>		○			○	
			トホシカメムシ	<i>Lelia decempunctata</i>	○	○			○	
			ヨツボシカメムシ	<i>Homalagonia obtusa</i>			○			
コウチュウ目		クワガタムシ科	ミヤマクワガタ	<i>Lucanus maculiformoratus</i>	○	○			○	
		ゾウムシ科	ハスジゾウムシ	<i>Cleonus japonicus japonicus</i>	○					
チョウ目		セセリチョウ科	ホソバセセリ	<i>Isoteinon lamprospilus</i>				○	○	
ハチ目		スズメバチ科	シダクロスズメバチ	<i>Vespula shidai</i>	○	○				
		ミツバチ科	オオマルハナバチ	<i>Bombus hypocrita hypocrita</i>			○			

謝辞

カワゲラ目標本の同定をしていただいた森本静子氏、コウチュウ目カミキリムシ科、コメツキムシ科、ハエ目ハナアブ科の同定をチェックしていただいた森康貴氏に謝意を表す。

引用文献

- 岩崎 拓 (2010) 和泉葛城山の昆虫 (2008 年度調査). 貝塚の自然 第 12 号 : 41-45.
 岩崎 拓 (2011) 和泉葛城山の昆虫 (2009 年度調査). 貝塚の自然 第 13 号 : 88-94.
 岩崎 拓 (2012) 和泉葛城山の昆虫 (2010 年度調査). 貝塚の自然 第 14 号 : 53-58.
 岩崎 拓 (2013a) 和泉葛城山昆虫調査 2012. 自然遊学館だより No. 67 : 22-24.
 岩崎 拓 (2013b) 和泉葛城山の昆虫 (2011 年度調査). 貝塚の自然 第 15 号 : 41-50.
 大阪府 (2000) 「大阪府における保護上重要な野生生物 ー大阪府レッドデータブックー」. 442pp.

付図

毎月の調査後すぐに、自然遊学館の玄関横の掲示板に、調査結果を速報として貼り出した。それらを付図として以下に掲載した。

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2012年4月）

2012年4月13日 天候：くもり 調査者1名
 ブナの芽はまだはっきりとは分かりません。樹上では、タムシバの白い花や、常緑で寄生植物のヤドリギが目立ちます。地面ではシハイスマシが可憐な花を咲かせていました。チョウをはじめとする昆虫の活動は目立たず、山頂は春の一手前という感じがしました。



ブナ林の景観

チョウ目 チョウ類2種

山頂の神社前の空間でヒオドシチョウのオスが「なわばり」を作っていました。毎春に見られる光景です。でも、その他にチョウはルリシジミが見られませんでした。ガでは、エダシャクの仲間を撮影・採集しましたが、翅を開いた標本にしないと種類が分かりません。



ルリシジミ

ハチ目

二ホンミツバチの写真を撮ることができました。その他、黒色で尻だけが橙色のコマルハナバチを確認しました。アリ類では、クロヤマアリ、ウメマツオオアリ、トビイロケアリといった普通種が活動を始めていましたが、種数も個体数もまだまだといったところです。



二ホンミツバチ

その他の昆虫

カメムシ目も種類は少なく、マダラカスミカメとヤニサシガメ幼虫の2種だけを確認しました。コウチュウ目は、コアリガタハネカクシとツブノミハムシだけがすぐに種類が分かりました。キイロナミホシヒラアブが何匹かホバリング（静止飛翔）していました。



マダラカスミカメ

キノコ

右の写真は、ブナの殻斗（ドングリ）に生えるシロヒナノチャワンタケという白色のキノコです。柄が長いもので4mm程度の小さなキノコです。図鑑では「各地にごく普通」と書いてありますが、見たのは初めてです。



「和泉葛城山」昆虫調査速報（2012年5月）

2012年5月10日 天候：晴れ 調査者1名
 ブナの葉は完全に開き、一か月前とは景観がまったく変わりました。気温が急に下がったせいか、チョウ類はほとんど飛ばず、アカタテハを1個体見ただけでした。それでも、その他のカメムシ目、コウチュウ目、ハエ目、ハチ目などのグループはかなり種数が増えています。



ブナ林の景観

バッタ目など

バッタ目はまだまだ出てきていません。クチキウマ属の一種の幼虫の写真を撮影できました。オスなので飼育しても産卵管が出ず同定ができないので逃がしました。その他、フキバッタ属の一種とエダナナフシの孵ったばかりの幼虫を確認しました。



クチキウマ属の一種

ハチ目

ハルゼミが1個体だけ鳴いていました。写真は平地にもいるトビイロツノゼミです。プチヒシウンカやムラサキナガカメムシなど、山地にいる種も採集したのですが、撮影できたものは、クリオオアブラムシなどの平地にもいるものばかりでした。



トビイロツノゼミ

ハエ目 など

ハエ目は先月より個体数が著しく増えました。マダラメバエ、ナミハナアブ、ヒロードツリアブの写真を撮ることが出来ました。ハナダカハナアブは、これまで自然遊学館に標本がないものでした。ニュースオドリバエ、ヒラヤシマバエ、ヒメフンバエ、などはお馴染みのメンバーです。1mm程度の小さなものが網にたくさん入ります。まったく種類は分かりません。でも、下の写真のように体長1cm以上の大型種でも種類が分からないものもあります。コウチュウ目では、フタオビノミハナカミキリとユアサハナソウムシが、これまで標本にないものでした。



マダラメバエ



ヒロクチバエ科の一種

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2012年6月）

2012年6月14日 天候：晴れ 調査者1名
 ウツギの花は咲き始めの時期でした。入ったばかりの梅雨の合間の晴れで、林内は湿っていて、ブナの立ち枯れや倒木上では、ウスヒラタケが生えて菌食性の甲虫がたかり、オオギセルやアスキガイといったやや珍しい陸貝の姿も見る事ができました。



ウツギ

チョウ目

チョウ類は、スジグロシロチョウ、ミドリヒョウモン、クロヒカゲ、ヒメジャノメ、アカタテハ、ルリタテハ、スミナガシ、サカハチチョウ、テングチョウの9種を確認しました。テングチョウは30匹以上が群れていました。確認したガ類の中では、エソヨツメがやや珍しい種です。



スミナガシ

コウチュウ目

クロホシテントウゴミシダマンやグズロキハムシといったお馴染みの種のほかに、写真のジンガサハムシや、オオキマダラケシキスイ、コクロヒゲトハネカクシ、ホソチビオオキノコ、ヒメナガサビカミキリといった自然遊学館に標本がない種が確認されました。



ジンガサハムシ

ハエ目

目立つのはマガリケムシヒキで、餌を捕まえて口吻を刺している個体もけっこう見ることができました。アカメセダカオドリバエやアシトハナアブも目立ちます。ミスジメバエやベッコウバエの写真を撮ることができました。キスシアブは自然遊学館に標本がない種でした。



ミスジメバエ

バッタ目

今年もチキキウマのメス成虫（→写真）を採集することができました。ナキイナゴが1個体だけ鳴いていました。草むらにすむナキイナゴと森にすむチキキウマが狭い範囲で生息している場所は珍しいと思います。



付図1（左上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2012年4月）

付図2（右上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2012年5月）

付図3（左下）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2012年6月）

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2012年7月）

2012年7月10日 天候：くもり 調査者1名

ホタルブクロ、オカトラノオ、ウツボグサの花が目立ちます。ブナの倒木上では、先月に引き続き、珍しいオオギセル（右の写真の中央）という陸貝が活動していました。陸貝にとって梅雨は「良い」時期なのでしょう。



チョウ目

スジグロシロチョウ、ミドリヒョウモン、ツマグロヒョウモン、クロヒカゲ、ヒカゲチョウ、ヒメアカタテハ、サカハチチョウ、アサギマダラ、テングチョウ、トラフシジミ、ムラサキシジミなど、13種のチョウを確認しました。ツマアカサヤチホコは、遊学館に標本のないガでした。



トラフシジミ

バッタ目など

ナキイナゴの鳴き声を聞き、姿を確認しました。まだバッタ目種数は少なく、ハネナシコロギス幼虫、ヤマトフキバッタ幼虫、オオカマキリ幼虫、クスジゴキブリ、エダナフシ幼虫を確認しただけです。ブナ林に特有の種は確認されませんでした。



ナキイナゴ

コウチュウ目

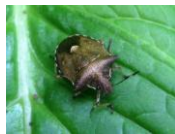
お馴染みのクロホシテントウゴミムシダマシを撮影してみました。遊歩道の木柵上にも多く張り付いていますが、体長3ミリなので分かりにくいかもしれません。その他、オオオハバタルの飛翔が目立ちます。ルリコブオトシブミは、これまで遊学館に標本がない種でした。



クロホシテントウゴミムシダマシ

カメムシ目

ハルゼミに加えて、ニイニゼミも鳴き始めました。トゲカメムシは、蕎原本谷より上でしか確認されていません。山地性の種と云って良いでしょう。撮影だけしたエビイロカメムシが、遊学館に標本がないと気づいたのは、これをまとめている時です。失態でした。



トゲカメムシ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2012年8月）

2012年8月7日 天候：晴れ 調査者1名

蕎原で気温30℃の時、山頂では25℃でした。暑くはありませんが、山頂でもしばらくは雨がなかったようで、日向で道沿いの草は枯れていました。ブナの倒木でも、オオギセル（陸貝）はごくわずかになっていました。



チョウ目

モンキアゲハ、スジグロシロチョウ、キチョウ、ミドリヒョウモン、ツマグロヒョウモン、クロヒカゲ、ルリタテハ、スミナガシ、サカハチチョウ、など12種のチョウを確認しました。遊学館に帰ってから、ホソバセセリの標本が1993年の1個体しかないと気づきました。



ホソバセセリ

バッタ目など

写真はホソクビツユムシの幼虫です。貝塚市内では当地でしか確認されていません。産卵管の先が丸いのが他のツユムシ類との違いで、メスならその特徴で見分けることができます。大阪府レッドデータブックで準絶滅危惧のヒトコブササキリモドキを今年も確認することができました。



ホソクビツユムシ幼虫

コウチュウ目

シラホシカミキリを撮影することができました。ブナの倒木上に生えたシロカイメンタケというキノコの表面では、サビハネカクシが30個体ほど群がっていて、気持ち悪いくらいでした。群青色で美しい、遊学館に標本がなかったコムツクシは、ルリツヤハダコムツクシでした。



シラホシカミキリ

カメムシ目

ニイニゼミ、エソゼミ、ミンミンゼミの鳴き声が聞こえました。ヒグラシは姿を確認しました。屋間は鳴かないと決めているのかもしれません。写真のクチブトカメムシ幼虫も、遊学館に帰ってから、標本が2006年の1個体しかないと気づきました。写真だけの記録になりました。



クチブトカメムシ幼虫

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2012年9月）

2012年9月5日 天候：晴れ 調査者1名

山頂の気温は正午で23℃台でしたが、湿度が高く、心地よさが感じられません。ブナの倒木にはブナハリタケがびっしりと生えていました。図鑑には「炊き込みご飯はマツタケに似た香りがする」と書かれています。



チョウ目

キアゲハ、スジグロシロチョウ、キチョウ、ヒカゲチョウ、クロヒカゲ、ジャノメチョウ、アサギマダラ、イチモンジセセリの8種のチョウを確認しました。ハチと違って網を振ったら、ヒメコスカシバ（スカシバガ科）が入っていました。スカシバガ科は、透明な翅が特徴です。



ヒメコスカシバ

バッタ目など

バッタ目は、ツマグロバッタ、ヒロハネヒナバッタ、ショウリョウバッタ、シバズスの4種しか確認されませんでした。褐色型のエダナフシが樹の幹に止まっていて、すばらしく背景に溶け込んでいました。ハサミムシ目は、エソハサミムシが1種だけ確認されました。



エダナフシ

ハエ目

ウシアブ、オオハナアブ、マダラアシナガバエなどのお馴染みのメンバーはかなり減りましたが、ヒメフンバエだけはまだまだ多くいました。写真のヨコジマオオハリバエは、山頂だけにいる種ではありませんが、口吻を伸ばしているところを撮影できたので、掲載しました。



ヨコジマオオハリバエ

カメムシ目

ニイニゼミ、エソゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシの鳴き声が聞こえました。ヒグラシは羽化殻で確認しました。写真のトホシカメムシは山頂付近でしか見かけない種です。前胸背に4個、小楯板に6個の黒い点があり、それが和名の由来です。この日は幼虫も撮影できました。



トホシカメムシ

付図4（左上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2012年7月）

付図5（右上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2012年8月）

付図6（左下）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2012年9月）

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2012年10月）

2012年10月6日 天候：晴れ・くもり 調査者1名
 落葉したり、紅葉したりする樹もありますが、まだまだ全体の景観としては「緑」が大部分を占めます。山道で目立つのはテイショウソウの可憐な花と、様々なキノコです。広葉樹の切り株に生えたナラタケを掲載しました。



チョウ目など

キチョウ、スジグロシロチョウ、ルリタテハ、ミドリヒョウモン、ウラナミシジミの5種のチョウを確認しました。日向でも、飛んでいる虫は少なく、秋も終わりの気配がします。トンボ目では、1993年以來、標本がなかったオツネトンボ（越冬蜻蛉）を採集できたのが収穫でした。



ウラナミシジミ

バッタ目

バッタ目は、ハヤシウマ幼虫、ハネナシコロギス幼虫、アシグロツコムシ、モリオカメコオロギ、クサビバリ、マダラスズ、シバズ、カンタン、ヤマトフキバッタの10種を確認しました。カンタン（♂）の優しい鳴き声がちらほら聞こえるのですが、姿を見たのは♀だけです。



カンタン♀

コウチュウ目

サビカミキリの仲間は分類が難しく、これまでに発表したリストは誤りを含んでいます。今回の種は、これまで標本がなかったエソサビカミキリで、他の種より遅くまで成虫がいるようです。その他、スジウガタ、キイロセマルケシキスイ、コアリガタハネカクシなどを確認しました。



エソサビカミキリ

カメムシ目

先月の調査では4種のセミが鳴いていたのに、今回はまったく聞きませんでした。写真はシモフリクチフトカメムシです。この仲間はガの幼虫などに口吻を突き刺して、その体液を吸います。その他、山頂で常連の種としては、ツマシロカメムシを確認しました。



シモフリクチフトカメムシ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2012年11月）

2012年11月8日 天候：晴れ・くもり 調査者1名
 下界よりも早く、昆虫の撮影シーズンは終わりました。紅葉と野鳥の撮影にバトンタッチというところでしょう。何人かが撮影に来ていました。新機のデジカメの扱いに慣れていなかったため、紅葉の写真は落第点でした。



チョウ目

チョウ類は、ヤマトシジミだけを1匹だけ確認しました。その他、ゴマフリドクガの幼虫と、ハマキガ科のプライヤハマキを撮影できただけです。今年の秋は、山頂でタテハチョウの仲間を見る機会が本当に少なく、良い写真が撮れませんでした。



プライヤハマキ

バッタ目

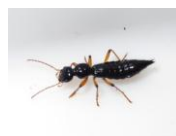
バッタ目は、ヤマトフキバッタ、モリオカメコオロギ、シバズの3種を確認しました。1匹だけ見たヤマトフキバッタのメスは左後脚の具合が悪いようでした。モリオカメコオロギとシバズの鳴き声も弱々しく、もう来月の調査では確認できないだろうと思います。



ヤマトフキバッタ

コウチュウ目

コアリガタハネカクシ、キイロセマルケシキスイ、オオキバハネカクシの3種を確認しました。コアリガタハネカクシは、1年トータルで見ると一番目にする機会が多い甲虫だと思います。キイロセマルケシキスイとオオキバハネカクシは、ツキヨタケというキノコの中にいました。



コアリガタハネカクシ

カメムシ目

カメムシ目は他のグループより成虫で越冬する種の割合が高く、この時期でも比較的目にする機会があります。オオトビサシガメのほか、ハラビロヘリカメムシ、セアカツノカメムシ、ミヤマカメムシ、ヘラクヌギカメムシを確認しました。



オオトビサシガメ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2012年12月）

2012年12月13日 天候：晴れ 調査者1名
 南斜面の和歌山県側から登っても、尾根筋の一部の路面が凍結し、車では途中までしか行けません。1キロほど歩いて山頂に着きました。山頂より北側のブナ林内には雪が積もり、すっかり冬景色です。



チョウ目 チョウ類0種 ガ類2種

チョウ類は1匹も確認できませんでした。遊歩道の柵の上に *Inurois* 属のフユシャクのメス成虫がとまっています。フユシャクの仲間のオス成虫は普通のガの形をしていますが、メス成虫には翅がなく飛べません。その他、ミノガ科の一種のミノを確認しました。



フユシャクの一つ♀

カメムシ目

積雪の下の落葉層で成虫越冬しているカメムシもいるのですが、探しても見つけれませんでした。写真はスギのはがれかけた樹皮の内側にヤニサシガメの幼虫です。寒さでほとんど動けないほどになっていました。周辺の気温は午後1時半で0.9℃でした。



ヤニサシガメ幼虫

コウチュウ目など

雪に出たミヤコザサを網ですくっても、入るのはキノコバエの一種くらいです。Aコースのブナの倒木でも、生きた虫は見つけることができず、倒木の隙間にオニクワガタのメス成虫の死体だけを見つけました。夜の氷点下の中、永い眠りについたのでしょう。



オニクワガタ♀死体

その他

テンとノウサギの足跡を見つけました。赤い矢印が進行方向です。テンは並足で跳躍した足跡です。雪の中、食べ物を見つけられていることを祈りました。



テン足跡



ノウサギ足跡

付図7（左上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2012年10月）

付図8（右上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2012年11月）

付図9（左下）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2012年12月）